

ご記入いただき、作品と、委託の方は搬出用着払伝票（ヤマト、郵便局等）とともにご送付ください。

キャプション作成、会場やsns等で作品をご紹介する際に活用させていただきます。

※シートはご自身で作りなおしていただいてもかまいません。アンパンサイトにPDFデータあり。

---

作家名/フリガナ 熊谷 毅 / クマガイ ツヨシ

---

作品タイトル Emergence in the state of Emergency

---

素材、技法 約5時間の映像を素材とし、動画／映像ソフトで編集。

---

制作年 2021年 都道府県 宮城県

---

コンセプト、作品解説（必須ではありません）

セミの羽化を初めて見たのは小学4年生の自由研究のときだった。昔を懐かしんでか、仙台でも簡単に見ることができると知って以来、ここ数年はその様子を観察したり、写真や映像に残したりすることが恒例になっている。

調べてみると、「羽化」は英語では「emergence」というそうだ。一般的な意味は「出現」や「登場」なので、幼虫やさなぎの中から成虫が現れ出すこと（＝羽化）にこの語があてられているのだらうと思う。似た語に「emergency」がある。こっちの方が見聞きする機会が特に最近が多い。言わずと知れた、（悪い意味での）緊急事態、非常事態という意味だ。

世間がどんな事態に陥っていても時期が来たらセミは羽化を始める。2011年から今年に至るまで夏にセミの鳴き声が途絶えなかったのは、大きな揺れというemergencyを地中で体験したであろう幼虫たちも、地上に這い上がって羽化したからだ。

今年は室内で羽化を観察することにし、2頭捕獲して連れ帰った。往来するひとの減った道路を見下ろす窓際に、羽化の足場になりそうな枯れ花を1本だけ設えた。いま人間の営みが陥っているemergencyはセミには関係ないだろうが、足場が限られるという（彼らにはきっとささやか過ぎるであろう）emergencyを作り出し、それをどう乗り越えてemergenceするのか興味があったのだ。

暗くした部屋で発泡酒の缶を空けながら観察と記録を続けていると、遠くからたまに救急車のサイレン音が聞こえてきた。

仙台  
アンパン  
ダン展

●座席／糸井寛二（ダダカン）